

I 序 章

1 本学の自己点検・評価のこれまでの歩み

本学が自己点検・評価報告書を最初にまとめ公表したのは、1995（平成7）年、今から13年前に遡る。1991（平成3）年に大学自身による「自己点検・評価」の実施を促す大学審議会の答申が出され、大学設置基準が改正された。これを受けて本学は「自己点検・評価のあり方に関する検討委員会」を立ち上げた。当委員会は1992（平成4）年12月、その検討結果を教授会に報告し、この報告を基に1993（平成5）年2月学長を委員長とする「自己点検・評価委員会」が発足し、具体的な内容の検討に着手し、報告書の作成を始めることになったのである。このとき自己点検・評価項目としてⅠ．神戸薬科大学創学の理念と沿革、Ⅱ．教員組織、Ⅲ．学生、Ⅳ．研究活動、Ⅴ．各種施設、Ⅵ．管理運営、Ⅶ．教員・職員名簿の7項目が設定され、2年に1度冊子にまとめ公表することになった。その成果として発刊されたのが、『神戸薬科大学自己点検・評価報告書—現状と展望— 1995年』である。

報告書はその後も順調に発行され、1997（平成9）年に第2篇が、1999（平成11）年に第3篇が刊行され、2001（平成13）年刊行の第4篇では新たに財政の章が加えられた他、「学生による講義評価アンケート」などの項目も追加されるようになった。しかし、大学を取り巻く社会情勢の変化は速く、ある意味で自己満足的な学内の教員や職員によるこのような自己点検・評価では済まされない状況になりつつあった。そのような状況に鑑み、本学でも第三者による客観的な視点からの評価を受ける準備を進めることになった。

第三者評価を受けるために（財）大学基準協会への加盟申請を行うことが2002（平成14）年6月に教授会で承認された。これを受けて直ちに、「大学基準協会加盟準備委員会」が立ち上げられ、具体的な準備作業が開始された。これまでの報告書とは書式も異なり、また点検・評価項目が多岐にわたることもあって、短期間集中のこの準備作業は大変であった。結局最終的に出来上がったものは、本編ページ数190ページを越える膨大なものとなった。しかし、その甲斐あって、2004（平成16）年4月から正会員として認定されることになった。その際の報告書は、加盟申請の際に受けた指摘内容（勧告・助言・参考意見など）とともに冊子としてまとめられ公表された。それが『神戸薬科大学 自己点検・評価報告書—大学基準協会 加盟判定審査報告書 2004—』である。さらに2006（平成18）年にはその指摘内容に対する大学側からの回答という形で『神戸薬科大学自己点検・評価報告書 —大学基準協会 加盟判定審査後の改善状況 2006—』がまとめられ公表された。

2 今回の自己点検・評価報告書の編集について

今回の自己点検・評価報告書は、自己点検・評価委員6名と総務課の2名の計8名によって最終的に編集された。第1回会合が2007（平成19）年5月29日に行われ、以後十数回の会合が持たれた。2007（平成19）年7月2日に「大学基準協会大学評価」の学内説明会があり、7月5日に

2 今回の自己点検・評価報告書の編集について

は学内の関係部署と関係各位に原稿依頼のメールを発信した。11月15日集ってきた原稿を基に大学評価調書（報告書）の第1回草案提出に向けての点検作業に入った。12月21日大学基準協会へ出向き、調書草案1の提出・面談を行う。その結果を受けて、2008（平成20）年1月7日より、調書修正のための具体的な編集作業に着手。数回の草案の修正・編集会議を経て、3月3日に大学基準協会に出向き、第2回の調書草案2の提出・面談を行う。その指摘を踏まえ、さらに数回の編集作業が続けられた。提出の期日が決められていたこともあり、作業は強行日程で行われた。土曜日はもちろん、夜遅くまで検討・修正作業が続けられたことも一度や二度ではなかった。

今回の申請における従来との最大の相違点は、主要点検・評価項目に関して、項目ごとに到達目標の記入が義務付けられたことである。大学自身が項目ごとの到達目標を設定し、現状の説明とその到達目標に照らしての点検・評価をし、改善方策を提示するという記入方式になった。主要点検・評価項目が数多く設定されていたこと、また指示説明の解釈に戸惑ったため何度も点検・修正を強いられ、予想を遥かに超える作業が必要となった。その他、6年制課程と4年制課程が並行して走っているため、記述内容の選択及びスペース配分に苦慮することもしばしば生じた。また、改善方策にもこれまで以上に具体的な記述が求められたため、記述内容をめぐって慎重な検討が必要であった。最終的に本文に提示されたような内容に落ち着いたが、それらが最善の選択であったかどうかには一抹の不安があることも否めない。しかし、いずれにせよ現時点としては当委員会としてできる限りの努力を行ったことは確かで、後は（財）大学基準協会の評価結果を謙虚に受け止め、将来に亘る大学改善に生かしたいと思う。

今回の自己点検・評価報告書の編集メンバーと自己点検・評価組織体制は以下のとおりである。

（1）自己点検・評価報告書の編集メンバー

委員長 棚橋 孝雄 学長	畑 公也 准教授
小林 典裕 教授	杉浦 眞喜子 准教授
北河 修治 教授	松家 次朗 准教授

以上、自己点検・評価委員
総務課 足立 利枝 課長、藤塚 雅弘 課長補佐

（2）自己点検・評価報告書編集の主要日程

日 程	事 項 と 内 容
2007（平成19）年4月19日（木）	◇平成19年度大学評価・認証評価実務者説明会参加（藤塚、前中）
2007（平成19）年5月29日（火）	○自己点検・評価委員会（第1回） 棚橋委員長、春山、小林、北河、杉浦、（足立、藤塚） ・概要説明 ・スケジュールの検討
2007（平成19）年6月11日（月）	◎教授会 ・報告「相互評価（認証評価）申請」調書作成に関する学内説明会の開催について」

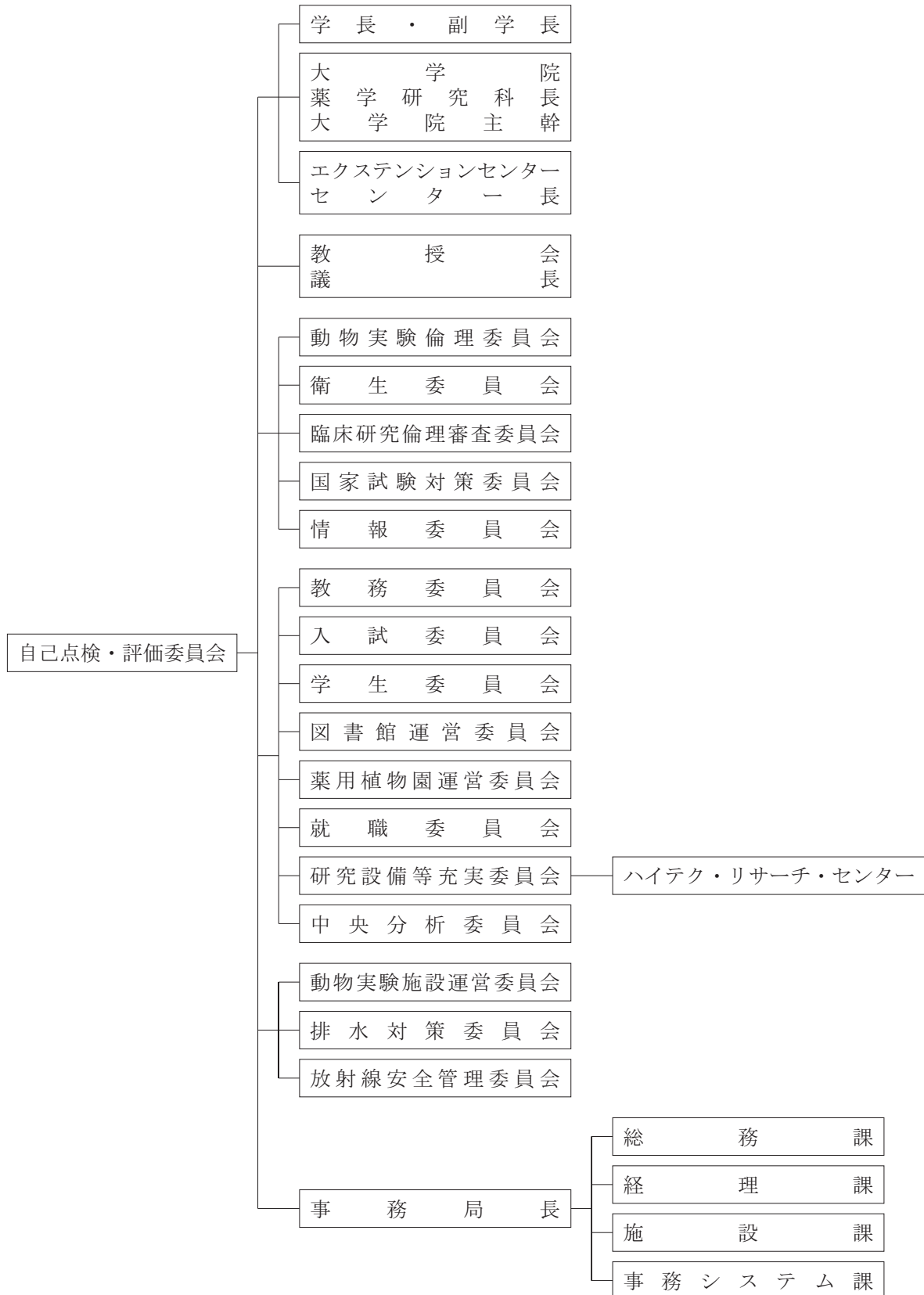
2 今回の自己点検・評価報告書の編集について

2007（平成19）年6月18日（月）	○自己点検・評価委員会（第2回） 棚橋委員長、小林、北河、杉浦、畑、松家、（足立、藤塚） ・依頼検討項目（各委員会等）の決定 ・原稿作成依頼
2007（平成19）年7月2日（月）	◇「大学基準協会大学評価」学内説明会
2007（平成19）年7月5日（木）	◆学内に原稿作成依頼メール配信
2007（平成19）年8月31日（金）	◆提出データ締切日：教育・研究業績データ（Ⅱ研究活動）
2007（平成19）年9月28日（金）	◆提出データ締切日：調査及び教育・研究業績データ
2007（平成19）年11月15日（木）	○自己点検・評価委員会（第3回） ・構成検討 ・スケジュールの検討
2007（平成19）年11月26日（月）	◆調書加筆修正依頼
2007（平成19）年11月29日（木）	◆調書加筆修正依頼
2007（平成19）年11月30日（金）	◆調書加筆修正依頼
2007（平成19）年12月13日（木）	○自己点検・評価委員会（第4回） ・授業評価アンケートについて ・調書加筆修正作業
2007（平成19）年12月21日（金）	◇大学基準協会訪問（仮冊子提出・面談）（足立、藤塚）
2008（平成20）年1月7日（月）	○自己点検・評価委員会（第5回） ・調書編集作業 ・スケジュールについて
2008（平成20）年1月8日（火）	○調書作成依頼 ・調書編集作業
2008（平成20）年1月16日（水）	○自己点検・評価委員会（第6回） ・調書編集作業
2008（平成20）年1月21日（月）	○自己点検・評価委員会（第7回） ・調書編集作業
2008（平成20）年1月28日（月）	○自己点検・評価委員会（第8回） ・調書編集作業
2008（平成20）年1月31日（木）	◇大学評価申請書及び教育研究組織一覧 提出
2008（平成20）年2月2日（土）	○自己点検・評価委員会（第9回） ・調書編集作業
2008（平成20）年2月7日（木）	○自己点検・評価委員会（第10回） ・調書編集作業
2008（平成20）年2月8日（金）	◇大学評価申請申込受理及び今後の手続きについて（通知）受付
2008（平成20）年2月9日（土）	○自己点検・評価委員会（第11回） ・調書編集作業
2008（平成20）年2月12日（火）	○自己点検・評価委員会（第12回） ・調書編集作業
2008（平成20）年2月13日（水）	◆調書加筆修正依頼
2008（平成20）年2月16日（土）	○自己点検・評価委員会（第13回） ・調書編集作業
2008（平成20）年3月3日（月）	◇大学基準協会訪問（仮冊子提出・面談）（北河、藤塚）

2 今回の自己点検・評価報告書の編集について

2008（平成20）年3月4日（火）	○自己点検・評価委員会（第14回） ・大学基準協会面談内容報告
2008（平成20）年3月6日（木）	○自己点検・評価委員会（第15回） ・調書編集作業
2008（平成20）年3月8日（土）	○自己点検・評価委員会（第16回） ・調書編集作業
2008（平成20）年3月11日（火）	○自己点検・評価委員会（第17回） ・調書編集作業
2008（平成20）年3月13日（木）	○自己点検・評価委員会（第18回） ・調書編集作業（最終）
2008（平成20）年3月28日（金）	◇大学評価申請書類一式 送付予定

(3) 自己点検・評価組織体制



2007年5月1日現在